



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2024年
No.2
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

薬剤名の部分一致による処方間違い



事例

【事例の詳細】

40歳代の女性患者に、セフトロキシム錠100mg、ムコダイン錠、ロキソプロフェン錠60mg、フェアストーン錠40が処方され、それぞれの用法・用量が1回1錠1日3回毎食後と記載されていた。来局時の問診票から、患者は風邪様症状で医療機関を受診したことがわかった。薬剤師は、患者の年齢や問診票、お薬手帳の情報から、閉経後乳がんの治療薬であるフェアストーン錠40が処方されていることに疑問を感じ、患者に既往歴、現病歴を聴取したところ、乳がんと診断されてはいなかった。処方医へ疑義照会を行った結果、フェアストーン錠40はアストミン錠10mgに変更になった。

【推定される要因】

医療機関の処方オーダーリングシステムの設定が部分一致検索になっており、処方医がアストミン錠を処方するため「アスト」と入力し検索した際、薬剤名の「アスト」の部分が一致するフェアストーン錠40が候補に挙がり、誤って選択したと推測される。

【薬局での取り組み】

患者から聴取した症状や問診票、お薬手帳の情報と処方内容を照らし合わせ、処方された薬剤の妥当性を判断する。今回の処方間違いの事例について薬局内で周知し共有した。



その他の情報

販売名	アストミン錠10mg	フェアストーン錠40
効能又は効果	下記疾患に伴う鎮咳 上気道炎、肺炎、急性気管支炎、肺結核、珪肺及び珪肺結核、肺癌、慢性気管支炎	閉経後乳癌
用法及び用量	成人（15才以上）には1回1～2錠（ジメモルファンリン酸塩として10～20mg）を1日3回経口投与する。但し、年齢、症状により適宜増減する。	通常、成人にはトレミフェンとして40mgを1日1回経口投与する。また、既往治療例（薬物療法及び放射線療法などに無効例）に対しては、通常成人にトレミフェンとして120mgを1日1回経口投与する。なお、症状により適宜増減する。

(2024年1月15日現在)



事例のポイント

- 本事業には、薬剤名の前方が一致していることが要因となり処方間違いが起きた事例の報告が多い。しかし、医療機関が処方オーダーリングシステムで部分一致検索機能を採用している場合は、本事例のように一見すると名称が類似していない薬剤が誤って処方されることがある。医療機関の処方オーダーリングシステムの設定などにより、本事例のような事象が発生する可能性があることを、処方箋を応需する薬局は把握しておく必要がある。
- 本事業部が運営している医療事故情報収集等事業には、医師が血管強化・止血剤のカルバゾクロムスルホン酸ナトリウム錠を処方するために「カルバ」と入力し検索した際、部分一致で表示された抗がん剤の塩酸プロカルバジンカプセルを誤って処方し、保険薬局で交付され、患者が服用した事例が報告されており、第74回報告書（2023年9月公表）P.51で紹介している。
https://www.med-safe.jp/pdf/report_74.pdf#page=56
- 本事例では、フェアストーン錠40の用法が、通常1日1回であるところ1日3回で処方されていた。処方監査を行う際、処方された薬剤の用法・用量が適切であるか確認し、患者から症状や現病歴・既往歴などの情報を収集して処方の妥当性を検討することは、処方間違いに気付く契機となる。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。